

# 町の課題に挑戦！第1・第2常任委員会

## 第1常任委員会

### 鍵はICT利活用

合併して10年が経ち、一つの町としての基盤づくりの段階は完了しました。これからは、今後の町の施策をどの分野を中心に展開していくのか、合併算定替えによる普通交付税の影響や財政運営のチェックはもとより、身の丈にあった事業を実施するための予算のチェック機能を充実させるよう努めます。

昨年度、高度情報基盤の整備が完了しました。恵まれた通信環境を生かしICT（情報通信技術）を利活用して住民生活を便利にしていくことができます。国が進める地方創生においてもICTに特化したものが謳われ、町では機構改革を行い、情報政策課を設置しま

した。本年度は議会と役場が一体となって利活用の方法を重点項目として捉え、研究を進めていく委員会としていきたいと思えます。

昨年の議員研修先である徳島県美波町、神山町、上勝町では10年以上前から、ICTへの取り組みを進め地方自治のあり方を示し続けています。私たちも先進地を実際に訪れてみて町の活気と明るさ、挑戦するエネルギーを強く感じました。こうした先進事例を参考にこの町の将来のため、ぜひとも取り組まなければならぬと考えています。

当町は国内トップクラスの通信環境が整い、ほぼ全世帯への光ファイバー網が整備されました。こうした恵まれた通信環境と公設民営方式の利点を生かし、積極的にモデル地域と

して声を上げることが大事です。

具体的には町の課題解決に必要な取り組みに注力し、災害に強いまちづくりや住民、特に高齢者にやさしいまちづくりにICTを活用し、町独自の活用方法を検討し、進めたいと思えます。

また、国の補助制度を活用し、限られた町の予算を有効に生かせるよう、町民の代表である議会としての役割を果たしていくよう努めます。

第1常任委員会  
委員長 藪田靖邦



第1常任委員会風景

## 第2常任委員会

### 資源を生かして！

第2常任委員会は産業課、建設課、商工観光課、教育委員会（教育総務課、生涯学習課）を所掌しています。

産業課に関しては、茶産業が低迷する中、生産意欲ある茶農家への支援強化と川根茶ブランドの堅持、宣伝対策が必要です。茶茗館を基軸に來訪観光客への呈茶サービス等で川根茶の宣伝強化に取り組み、耕作放棄地対策では、お茶に代わる転換作物・補完作物の選定、また林業関係では、桑野山貯木場の整備を行い、大井川産材の利用促進等の振興対策について、行政に提案提言をしていきます。

建設課関係では、町道、林道はもとより国道、県道など公共インフラの整備促進について、行政や関係機関と連携し進めていきます。

商工観光課については、商工業の発展と自然豊かな本町の立地条件を活かした観光誘客を目指し、商工会、町づくり観光協会、エコティかわね、大井川鐵道と連携して観光客の誘客促進を進めていきます。

教育委員会関係では、「子どもは町の宝」、「教員は町の財産」という本町の教育理念の実践のため、行政・議会が一丸となって、関係機関と密なる連携の下、児童から高校生までの教育環境の整備を行っていきます。

第2常任委員会  
委員長 芹澤廣行



第2常任委員会風景

# 林業の明日を拓く

## 現場から見た林業の未来

森林組合技術員 太田 起博

森林組合に勤務して48年。当時は山仕事全盛。山の中の小さな集落に仮植してあった杉・松の苗木を一人二百本掘り取りコモに包んで背負子で三ツ星山へ背負い上げ植栽したのがつい昨日のことのような気がする。その頃は杉・松は建築材、雑木は炭・薪として燃料となり、また、紙の原料にする為に出材された。木材搬出の全盛期であり、今思えば木材は宝のような値段で取引された。それだけ木材が必要とされていたのである。町としては大資源を持ち、茶業とともに町の経済の源であった。町全体が活気に満ち溢れていた昭和の良き時代でもあった。そ

の当時は直線距離1km以上の山奥からでも出材可能な集材架線の技術、大径木の伐木技術、道具、林道、木材市場、製材所、トラック、苗木農家等、木材産業に關係する仕事全てが発明され発展していった。



大径木に挑む 匠の技

そして現在、理由は色々あるが木材の需要は減り、林業は今、かつての輝きを失い、それまでの出材作業から山林管理のための間



伐採されたスギの大木 樹齢100年以上

伐作業が主となった。産業の衰退とは恐ろしいものである。林業に關係する全てのものがなくなり消えてしまうのである。きやんぼうと言われた人達も、林道、道具、苗木農家も製材所も。必要とされる物は発展・発明され、いらなくなればなくなってしまうのである。

個人的には過去のように木材の価値が上がりを願うが、かつてのよ

いるのである。人間は賢いものである。安くて品質の良い木材に替わる物を開発していくのではないかと思う。これからは木材に対して今までは違う見方をしても良いのではないかと考える。今の社会が森林に何を求めているのかを知り、それに答えることが大切だ

と思う。私はこれからの林業を水源涵養、国土保全、自然保護等、環境を重視し、森林を健全に保つために管理する産業として考えて

みたらどうかと思う。これこそ「水と森の番人」である。その仕事は収入にはなにもならないので、その為には森林や川の恩恵を受ける下流の人たちに、森林の価値と山林の手入れの重要性を知ってもらい、協力願うことが大切だと考える。

林業が往時の輝きを取り戻し、町に活力がよみがえることを心から願ってやまない。

### 私もひとりごと

樹齢数百年を超えたスギ・ヒノキには精霊山の神が宿ると言われている。山の神は秋になると里に下り、田に稲穂の恵みをもたらす。悠久の歴史が連綿として続く。

私も太田さんの林業を水源涵養、国土保全、自然保護等、環境を重視し、森林を健全に保つために管理する産業として考えたかどうかという考え方に賛同する。「森と水の番人」として、自然の恵みに感謝するとともに畏敬の念を忘れることなく日々の暮らしを続けていきたい。

林業が往時の輝きを取り戻し、町に活力がよみがえることを心から願ってやまない。

(中澤 莊也)

### ※【注釈】

○コモ 藁(ワラ)やイグサなどの草で編んだ簡単な敷物。代表的な製品にござがある。

○背負子(しよいこ) 荷物を括りつけて背負って運搬するための木枠。梯子状であることから「背負い梯子」とも呼ばれている。

○きやんぼう 山仕事(日雇い)を生業とする人。山から木を切り出すなど、木を扱う人。



コモに包んだ苗木を運ぶ背負子



苗木を包むコモ